

平成 21 年度実施 行政提案型協働事業 報告会における協働事業審査会の意見

この協働事業審査会の意見は、平成 22 年 5 月 30 日（日）に開催された、行政提案型協働事業報告会における協働事業審査員からの意見やアドバイスを、協働推進課でまとめたものです。

①花と緑のふれあい拠点（仮称）花のある景観づくり事業

団体名：明日の金田を創る会

事業担当課：農水産課

【協働事業を実施したメリットなど】

- ・協働事業を通じて住民同士、農業従事者、専門家、行政などのネットワークの構築が出来たことが大きな収穫であったと思う。このネットワークを引き続き活かしていただきたい。
- ・花菜ガーデンができた事で、近隣の方たちの意識が高まったことは、いいことだと思う。
- ・団体と行政との相互理解は、時間がかかると思うが、関係性ができていたことでスムーズに事業を行うことができたようである。
- ・「役割分担」が明確であった点が良い。
- ・団体と行政の良好な関係により連携がうまくいって、双方の意思疎通がよく図られており、協働の目的は達せられているようである。
- ・お互いに良きパートナーとして認め合い、思いをひとつにして事業を進めたことは評価できる。
- ・「花のある景観づくり」という目的において、一定の成果が果たされたようである。
- ・事業内容の成果が目に見えることで、市民の理解が得られたと思う。
- ・現実に目に見える事業であり、成果がはっきりする点で、進めやすい事業であるが、地縁組織等をうまく活用している点がよい。
- ・一定の成果に満足せず、次年度は平塚市にちなんだ花を植えるなど、前向きなことは素晴らしい。

【課題や今後への対応など】

- ・事業の目的を見失うことなく、継続的に実施していただきたい。
- ・この美しい景観を維持・発展させていただきたい。
- ・今後どのような取り組みがされるか、先を見通した継続性のある内容の事業であってほしい。
- ・初年度ということもあり、十分な成果が上がっていると思われるが、地域の若年層へのアプローチが弱いのではないか。若年層へも事業の参加を呼び掛け、今後は地域の子どもの体験学習的なものを含め、交流などが成果として現れてくると、素晴らしいと思う。
- ・花が咲く季節には、渋田川の桜のライトアップのようなイベントの企画・演出をすれば、さらに素晴らしい。
- ・イベントの企画などを通して、情報発信していただきたい。今後の活動にも期待が持てる。
- ・成果を広く市民の目に触れるようにしていくことが、地域からの協力に繋がると思う。
- ・「会に加入したいというボランティアが増加している」という内容の成果から、さらなる充実を図り、より多くの市民を巻き込む工夫をさらに期待したい。
- ・今後は花菜ガーデンとの連携的な展開も考えていただければと思う。
- ・花菜ガーデンに訪れた観光客を、古川排水路沿いへ、どう導くのか工夫の余地がある。

②防災フォーラムの開催

団体名：ひらつか防災まちづくりの会

事業担当課：防災危機管理課

【協働事業を実施したメリットなど】

- ・団体の事業遂行能力が非常に高いと感じた。
- ・行政側の支援は、自治会とのやり取り以外は適切であったと思う。
- ・市民生活の「安心・安全」を心がける行政と共有する事業の視点は良い。
- ・行政側の評価から、団体間で意思統一が図られていたのか疑問がある。しかし、話し合いを重ねる中で、相互理解が進められたようである。
- ・フォーラムへの参加者数は一定の成果である。これは、講師の選定や、各自治会、関係者への働きかけがあったからだと思う。
- ・フォーラムを開催するだけでなく、アンケート等で全体を把握したことは、大きな成果だと思う。
- ・地域の底力を発揮できる事業として、住民同士の信頼感を共有できるものにふさわしい内容である。
- ・フォーラム開催にいたるプロセス（アンケート、リサーチ等）を着実に踏んでおり、フォローの仕方も良い。
- ・団体は防災に関する知識が豊富で、その思いの強さから、当初は良好な関係とは言えなかったが、様々なプロセスを経て、互いに認め合い、信頼関係を築いたことは大きな成果である。
- ・協働推進課がコーディネーター的な立場で事業遂行に協力した点は良い。

【課題や今後への対応など】

- ・評価に双方で若干の差があり、双方で理解不足があったのではないかと。行政と団体の間にあった認識の違いが、今後の課題である。
- ・目的は同じでも、双方の考え方の擦り合わせが大変だったようである。
- ・「事業開始前の調整不足」を相互に認識したことについて、次にどう活かしていくかが課題だと思う。
- ・単にフォーラム開催を目的とした事業内容でなく、きめ細かな地域との接触など、今までの行政的発想にはないものが実践されたことが、地域防災力向上の芽生えにつながったと思える。しかし、この手法に行政側のとまどいを感じられたことから、双方の話し合いの大切さが顕在化した。
- ・防災の啓蒙を継続的に行うには、マンネリ化のリスクがあるので、テーマ設定や視点の切り替え、演出の工夫が必要である。22年度の事業について、新たな視点を期待している。
- ・市民一人一人に関係することなので、この取り組みを自治会に知らせる手段を考え、知らせることが防災意識を高めることにつながると思う。
- ・有事があっても互いに支え合うことの大切さを実感できると思うので、もっと市民に呼びかける手段を考えた方がよい。
- ・フォーラムにつながる事業展開について十分な話し合いを行い、より充実させて実施していただきたい。
- ・有事の際は、「自助」「共助」が大切であるが、実施したアンケートや地域役員からの聞き取りにより認識できた課題を、双方の視点で十分に話し合い、災害に強いまちづくりを進めていただきたい。

③市民活動普及啓発事業

団体名：特定非営利活動法人みんなでつくる平塚

事業担当課：協働推進課

【協働事業を実施したメリットなど】

- ・一連のシリーズとして実施した講座や、その内容をまとめた冊子は大きな成果であり、広く活動内容を知らせる良い手段になったと思う。
- ・実際に市民活動の楽しさを十分理解している団体であり、行政が考えた以上の内容であったと思う。
- ・連携の難しさを乗り越えるための努力が感じられた。

【課題や今後への対応など】

- ・設定したテーマが大きすぎて漠然としていたため、議論や打合せが進まなかったようだ。
- ・団体と行政の双方で「協働」の意味合いについて合意に至らず進めていったようだが、これをどう活かしていくかが、課題であり、目的を達成するための話し合いがもっと必要であった。
- ・双方とも協働の目的、役割分担、相互理解などに大きな隔たりがあり、十分な話し合いを行った中での展開が不足していると思われる。
- ・行政が団体を頼りきってしまったようであるが、もっと話し合いを行い、お互いに信頼と理解の上に立って、目標に向かっていくことができれば、それぞれの評価は違ってきただろうと思う。
- ・「協働の視点」の評価が双方とも低く、話し合いの場が十分ではなかったと感じた。
- ・フォーラムへの参加者が少なかったことは、PRの方法などもっと工夫し、双方が力を合わせ、他の団体への働きかけ等を行う必要性を感じた。
- ・双方とも理解不足のまま事業が展開されたことは、成果としては疑問が残る。
- ・行政と市民がコミュニケーションを活発にとることが重要な中で、市民活動を行う人材の発掘は課題であり、行政側も啓発にとどまらず、積極的な仕組みを提案する必要がある。
- ・回を重ねるごとに、「協働」の意味合いを双方で理解していったほしい。
- ・他市の協働の事例でも、費用や契約の問題など矛盾があったが、2年目、3年目とその矛盾をクリアしていった。回を重ねることで解決していくようなステップを踏んでいただきたい。
- ・事業への参加者が少なかったことに対して、市の事業として地域のローカル放送などに取り上げてもらう方法もあったと思う。
- ・今回のシリーズだけで終わらず、お互いをよく理解しながら、十分な話し合いをして、今後の実施も検討していただきたい。

④男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業

団体名：平塚てづくり紙芝居の会

事業担当課：人権・男女共同参画課

【協働事業を実施したメリットなど】

- ・事業の当初は、認識の相違があったが、話し合いを通じて解消されたようなので、今後はスムーズにいくと思う。
- ・団体の紙芝居製作について、負担が大きかったようだが、結果として良い作品ができ、上演機会があったことは良かった。
- ・団体と行政の双方に誠意をもって話し合う姿勢がうかがえた。
- ・将来を担う世代へ、どのように男女平等意識を培うかが大きな課題であったが、紙芝居を通じて意図したことは伝わったと思う。
- ・良い作品を、保育園や幼稚園で上演できたことは大きな成果であったと思う。
- ・紙芝居を通して男女共同参画推進を行い、保育園・幼稚園での上演にこぎつけた成果は素晴らしい。
- ・団体にとって能力が求められ、団体の会員の負担も増したと思われるが、「協働事業を通じて団体のレベルアップが図られて良かった」という言葉には感銘した。

【課題や今後への対応など】

- ・目的について意識の違いの擦り合わせが大変だったと思う。
- ・大人向けにも啓発につながる事業として良いのではないか。(大人の教育一道徳・倫理観を自省させるものの作品) また、幼児向け・大人向けの内容を共有出来る作品はできないものか。
- ・「違い」を相互に理解しつつ、「信頼」をつくっていくことの気づきが大切である。
- ・当初は負担や役割分担について双方の隔たりが大きかったようだが、事業を進める過程で、隔たりが縮まっていったように感じられる。協働事業での話し合いの大切さを体現しているように思う。
- ・喜んで見てくれた子どもたちのその後の行動(意識)は、この先確認できるのか。
- ・「経費に見合うサービス」の評価について、双方でギャップがあったことが気になった。今後も継続するならば、双方で十分に話し合い溝を埋める努力が必要と考える。
- ・難しい問題であるが、経費について予算計上のルールを明確化する必要性を感じる。
- ・紙芝居は大きなサイズでつくることはできないものか。
- ・行政サイドへの要望として、作品をつくり出すための費用負担について配慮してほしい。また、成果物の共有についてはっきり記載してほしい。
- ・今後も継続して実施するには団体の成熟度が心配である。
- ・男女共同参画がテーマであれば、母子家庭の問題、女性の働き方、ワークバランスなどのテーマも考えてみてはどうか。
- ・とても良い事業なので、もっとPRする仕組みや広報活動が大事である。